

箏唄

詩 || 藤井貞和
曲 || 高橋悠治

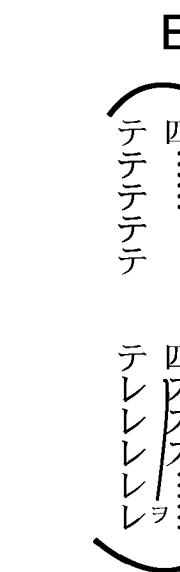
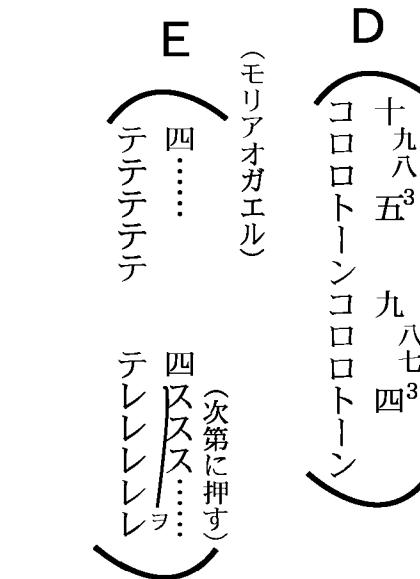
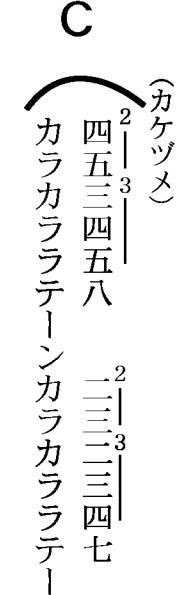
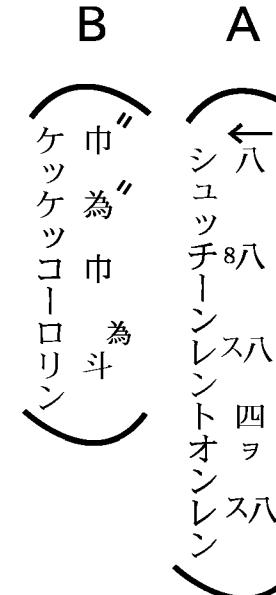
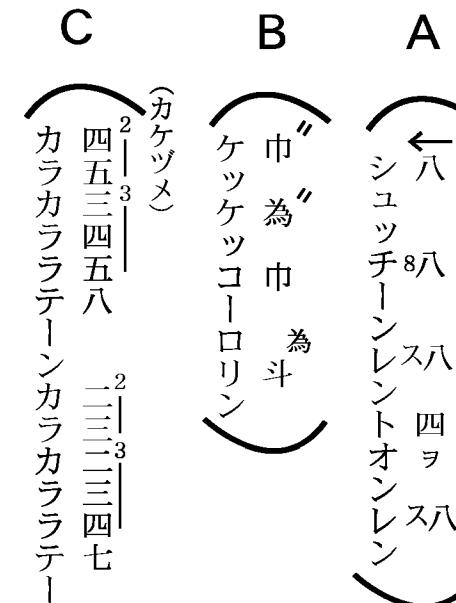
調絃



(↓は調子をはずして)

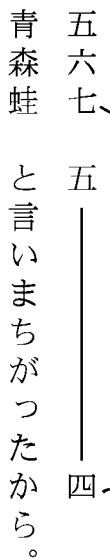
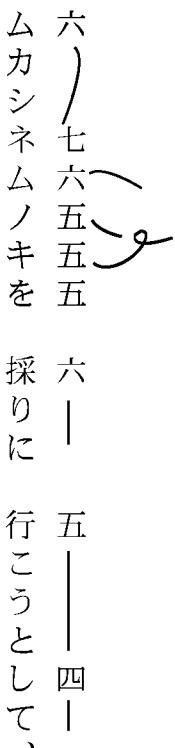
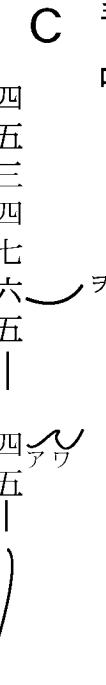
手一覧

(八の糸上の手法中心) (押し手はすべて調子をはずして)



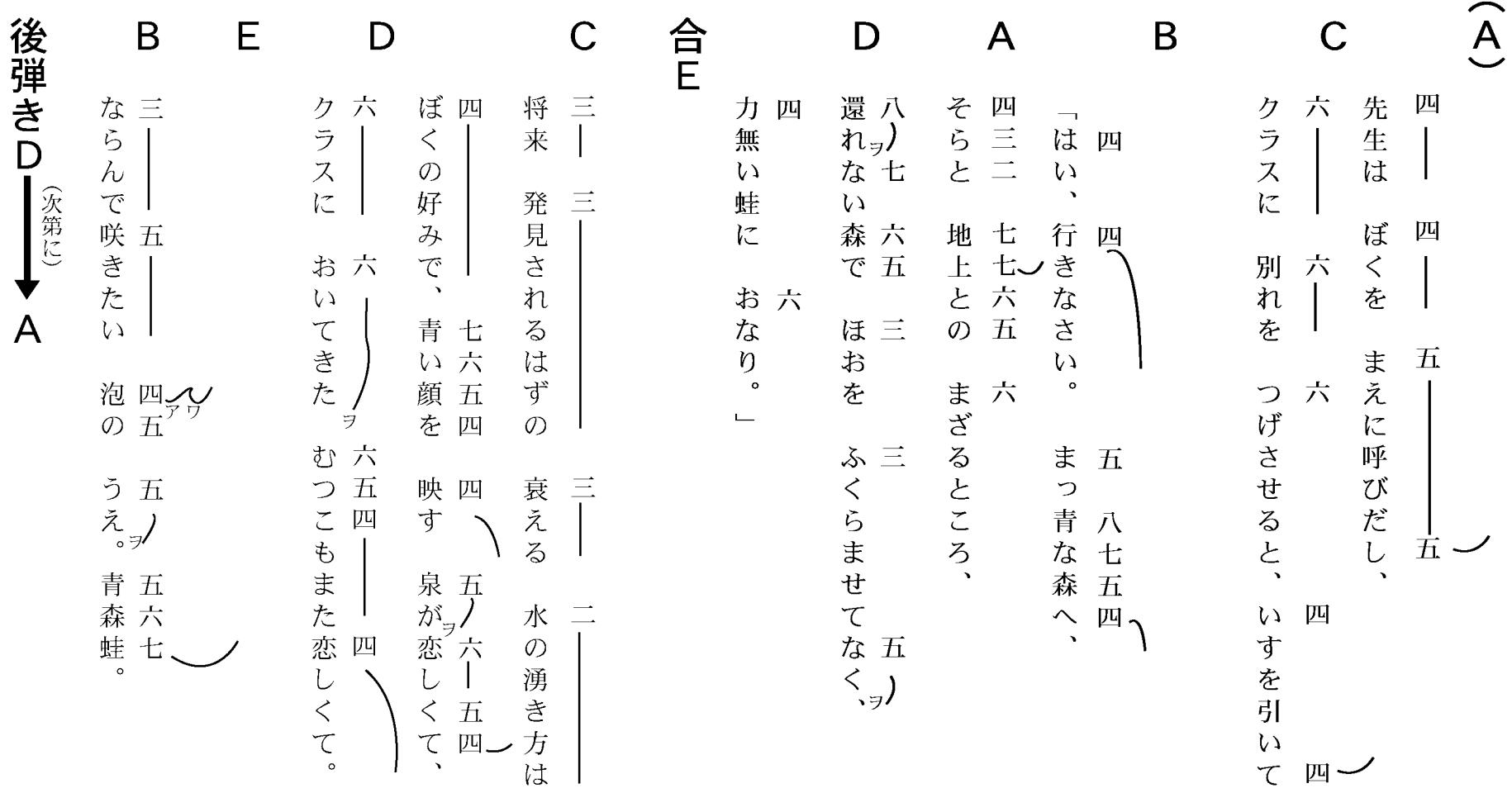
前弾きは A やがて少し B をまぜて

手 嘴



A (素)
「きみはもう あしたから 登校しなくてもよろしい。」と、
「きみはもう あしたから 登校しなくてもよろしい。」と、

A → E の特徴をおぼえたら
それにもとづいて ちがう手や音をまじえて自由に演奏する



青森蛙

藤井貞和

モリアオガエルの 泡を 咲かせる、
ムカシネムノキを 採りに 行こうとして、
青森蛙 と言いまちがつたから。

「きみはもう あしたから 登校しなくてもよろ
しい。」と、先生は ぼくを まえに呼びだし、
クラスに 別れを つげさせると、いすを引いて。

「はい、行きなさい。 まつ青な森へ、
そらと 地上との まさるところ、
還れない森で ほおを ふくらませてなく、
力無い蛙に おなり。」

将来 発見されるはずの 衰える 水の湧き方は
ぼくの好みで、青い顔を 映す 泉が恋しくて、
クラスに おいてきた むつこもまた恋しくて。
ならんで咲きたい 泡の うえ。青森蛙。